



団体認証の

事例紹介

南郷トマト生産組合 GAP先発隊の取組

J A会津よつば

南郷営農経済センター 営農課

南郷トマト生産組合概要

産地の概況

「立地」

J A会津みなみ管内は、福島県の南西部に位置しています。南会津郡3町1村からなり、総面積は234,164haで県土の14%を占めています。
標高は350～900mに分布する山間高冷地です。
首都圏からは約250kmで、東北道・西部須賀原IC下車、国道121号線を経て約4時間、鉄道では浅草駅から、東武鉄道・会津鬼怒川線にて会津高田駅まで3時間30分の所要時間で結ばれます。

「気候」

気候的には内陸型で、夏は涼しく、冬は寒さが厳しい四季の変化に富んだ地域です。
特に冬季間は日本でも有数の豪雪地帯のひとつに数えられ、比較的日本海の影響を受けやすい環境にあります。そのためか雪害、晩霜害、雹害、冷害、台風等、一年間のうち何らかの気象災害を受けやすい特徴があります。



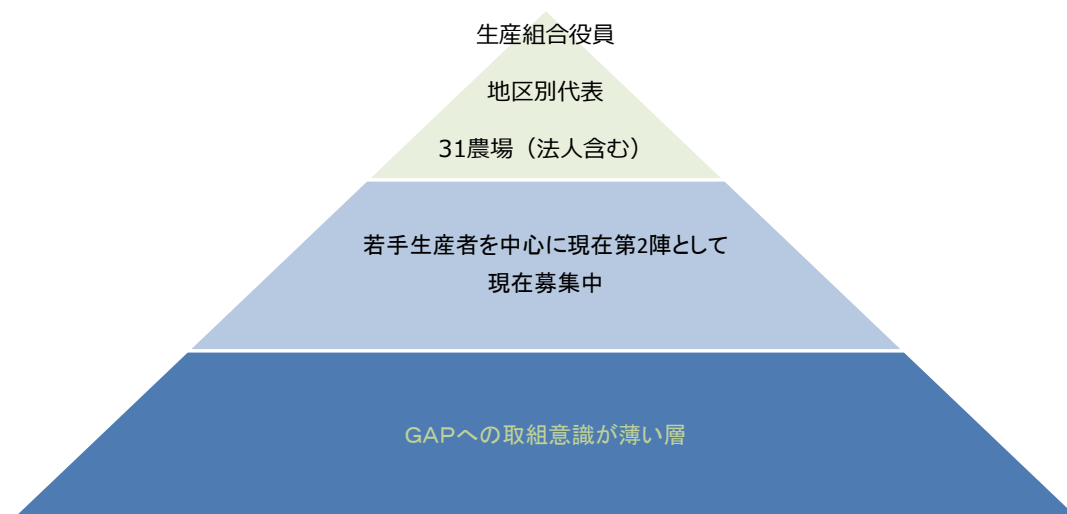
生産支援体制 南郷トマト組織図

南郷トマト指定 出荷市場荷受会社

<h4>京浜地区</h4> <ul style="list-style-type: none"> ・東京豊島青果株式会社 ・東京豊島青果株式会社 板橋支社 ・東京新宿ベジフル株式会社 ・東京荏原青果株式会社 ・東京シティ青果株式会社 ・金港青果株式会社 ・東京荏原ベジフル株式会社 ・東京青果株式会社 	<h4>関西地区</h4> <ul style="list-style-type: none"> ・大果大阪青果株式会社 北部支社
<h4>福島県内</h4> <ul style="list-style-type: none"> ・丸果会津青果株式会社 	
<h3>9社 10市場</h3>	

生産者数 122名 35ha

G A P 先発隊の構成



この他に事務局として J A 会津よつば南郷営農経済センター職員5名とサポートとして、南会津農林事務所2名

0

J G A P 認証に向けて 2018年4月取り組みを開始！！！！

なにをどうすればよいかわからない・・・。

ちょうどそのころ、全農福島のG A Pアドバイザー事業の存在を知り、活用することとなった。

1

最初の打合せで、アドバイザー J 氏がこんな質問をなげかけてきました。

J 氏：南郷トマトで今回 G A P に取り組む理由はなんですか？

私：G A P に取り組むことで、組合内のルールを明確にしたい！

2

なぜ今、ルールを明確にする必要があるのか？

- ・産地背景として、I ターン就農者が増え、歴史や伝統という部分だけでは補えない現状がある。
- ・高齢化による、栽培リスクの拡大。
- ・栽培技術の高位平準化の為、生産者の足並みをそろえる必要がある。



3

ルールやリスクの洗い出し

《事務局内での打合せ》

- ①とにかく一度、事務局内で知っているルールや決まりを全部挙げる。
(部会規約、出荷の際の注意点等)
- ②①で挙げたルールをとりあえず、文書にする。
- ③②の文書を、管理点と適合基準の対応箇所に貼り付ける。
- ④貼り付けた内容で、管理基準を満たしているかを確認する。
- ⑤既存のルールで対応できないか検討する。
- ⑥張り付いていない箇所は、不足しているので追加ルール必要性を検討。
- ⑦リスク評価の進め方

リスク対策やルール作成の際に注意する事は、現場に即しているものでなくては、意味がない

6

作業風景



5

自分たちのルール作り



生産工程 管理マニュアル (農場用)

令和元年5月版
西郷トマトGAP完結版

生産者が守れるルールづくり



農場でのリスク評価

【リスク検討表(収穫工程における農物混入・交差汚染)】

品目:とまと

作業者:2024年度 日 田
 担当:佐々木 誠 農研機構 佐々木 誠

リスク項目	発生要因(原因)等 発生状況	発生場所(発生時期)	発生頻度	発生量	発生時期	リスク評価			対応(対策)等
						発生頻度	発生量	発生時期	
収穫工程における 農物混入・交差汚染	人から持ち込まれた雑草種子(雑草)の混入	収穫作業時	1	1	1	1	1	1	収穫作業時、雑草の混入防止のため、収穫機に雑草取り装置を設置し、雑草を取り除く。
	収穫機に付着した雑草種子の混入	収穫機	2	1	2	2	2	2	収穫機に付着した雑草種子を定期的に洗浄し、雑草の混入防止を図る。
	収穫機に付着した雑草種子の混入	収穫機	3	2	3	3	3	3	収穫機に付着した雑草種子を定期的に洗浄し、雑草の混入防止を図る。
	収穫機に付着した雑草種子の混入	収穫機	4	3	4	4	4	4	収穫機に付着した雑草種子を定期的に洗浄し、雑草の混入防止を図る。
収穫工程における 雑草種子の混入	雑草種子の混入	収穫機	5	4	5	5	5	5	雑草種子の混入防止のため、収穫機に雑草取り装置を設置し、雑草を取り除く。
	雑草種子の混入	収穫機	6	5	6	6	6	6	雑草種子の混入防止のため、収穫機に雑草取り装置を設置し、雑草を取り除く。
	雑草種子の混入	収穫機	7	6	7	7	7	7	雑草種子の混入防止のため、収穫機に雑草取り装置を設置し、雑草を取り除く。
	雑草種子の混入	収穫機	8	7	8	8	8	8	雑草種子の混入防止のため、収穫機に雑草取り装置を設置し、雑草を取り除く。
収穫工程における 雑草種子の混入	雑草種子の混入	収穫機	9	8	9	9	9	9	雑草種子の混入防止のため、収穫機に雑草取り装置を設置し、雑草を取り除く。
	雑草種子の混入	収穫機	10	9	10	10	10	10	雑草種子の混入防止のため、収穫機に雑草取り装置を設置し、雑草を取り除く。
	雑草種子の混入	収穫機	11	10	11	11	11	11	雑草種子の混入防止のため、収穫機に雑草取り装置を設置し、雑草を取り除く。
	雑草種子の混入	収穫機	12	11	12	12	12	12	雑草種子の混入防止のため、収穫機に雑草取り装置を設置し、雑草を取り除く。

各種説明会

帳票研修会



リスク評価検討会



施設でのリスク評価

【リスク検討表(農産物取扱工程)】

品目: とまと

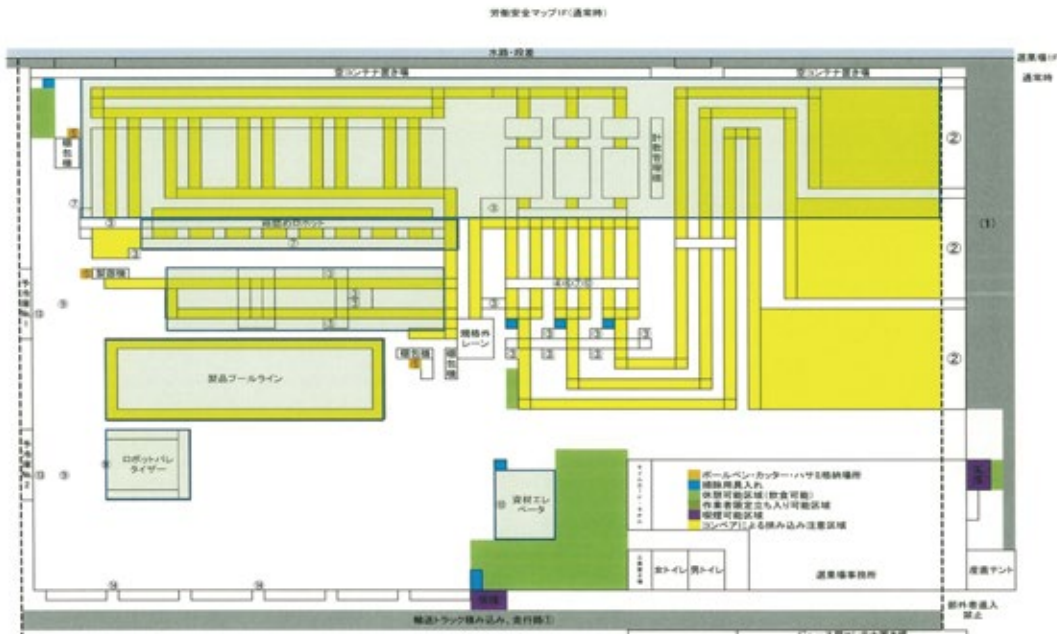
作成日: 2019年 7月 16日

JA青森より

リスク評価: ① 危険性大 ② 危険性中 ③ 危険性小
④ 危険性極小
⑤ 危険性不明

工程	工程名	実施上の危険な箇所	発生するリスク	発生頻度	リスクの大きさ	対策・ルーティン手順	実施者	時期
検査・出荷	出荷検査	出荷検査	①	2	2	2. 検査員への感染、検査員からの感染	検査員	出荷時
	出荷検査	検査員の手洗い	①	2	2	2. 検査員の手洗いの徹底	検査員	出荷時
	出荷検査	検査員のマスク着用	①	2	2	2. 検査員のマスク着用	検査員	出荷時
	出荷検査	検査員の手袋着用	①	2	2	2. 検査員の手袋着用	検査員	出荷時
	出荷検査	検査員の靴の消毒	①	2	2	2. 検査員の靴の消毒	検査員	出荷時
検査	検査	検査員の手洗い	①	2	2	2. 検査員の手洗いの徹底	検査員	出荷時
	検査	検査員のマスク着用	①	2	2	2. 検査員のマスク着用	検査員	出荷時
	検査	検査員の手袋着用	①	2	2	2. 検査員の手袋着用	検査員	出荷時
	検査	検査員の靴の消毒	①	2	2	2. 検査員の靴の消毒	検査員	出荷時
	検査	検査員のマスク着用	①	2	2	2. 検査員のマスク着用	検査員	出荷時
検査	検査	検査員の手洗い	①	2	2	2. 検査員の手洗いの徹底	検査員	出荷時
	検査	検査員のマスク着用	①	2	2	2. 検査員のマスク着用	検査員	出荷時
	検査	検査員の手袋着用	①	2	2	2. 検査員の手袋着用	検査員	出荷時
	検査	検査員の靴の消毒	①	2	2	2. 検査員の靴の消毒	検査員	出荷時
	検査	検査員のマスク着用	①	2	2	2. 検査員のマスク着用	検査員	出荷時
検査	検査	検査員の手洗い	①	2	2	2. 検査員の手洗いの徹底	検査員	出荷時
	検査	検査員のマスク着用	①	2	2	2. 検査員のマスク着用	検査員	出荷時
	検査	検査員の手袋着用	①	2	2	2. 検査員の手袋着用	検査員	出荷時
	検査	検査員の靴の消毒	①	2	2	2. 検査員の靴の消毒	検査員	出荷時
	検査	検査員のマスク着用	①	2	2	2. 検査員のマスク着用	検査員	出荷時

施設のレイアウト



G A Pに取り組んで苦労した点

- ・事務局の理解が不足していたことにより、生産者への情報提供が遅れた。
- ・生産者へ南郷トマトがG A Pへ取り組む意味を浸透させること。
- ・生産者にG A Pに対する温度差があり、その農場を一定レベルまで底上げする事。
- ・事務局のスケジュール調整（講習予約）
- ・役割分担（農場、事務局内）
- ・各農場が使用する水源の場所と種類の特定
- ・生産者が自発的にG A Pに取り組むための誘導

12

南郷トマトのG A Pとは？

取り組みを通して、明文化されていない組合内の暗黙のルールや考え方を明文化し、後世に託すことのできる安全な農業の仕組み作りをすることだと考えています。



御静聴ありがとうございました。

13

GAP認証取得支援の 取組事例



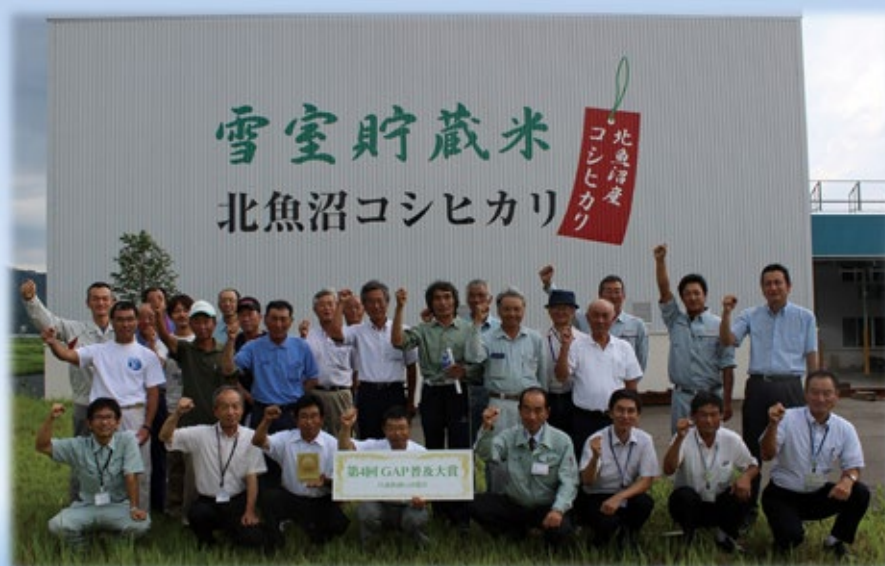
令和元年10月28日

(一社)全国農業改良普及支援協会主催 団体認証現地研修会 (GAP関連運動推進事業)

新潟県 農林水産部 農産園芸課 生産環境係 主査 小池 甲

取組事例①

JA北魚沼GAP部会 (団体認証)



新潟県GAP関連HPでも紹介してます

<https://gap-niigata.jp/>

取組の概要



H24年12月 JA北魚沼GAP部会発足

H25年 8月 団体認証取得（17農場）

H26年 3月 参加農場拡大
精米工程の認証取得

H26年 7月 第4回GAP普及大賞受賞
～JAと行政が連携した取組を評価～

取組のきっかけ



- 雪室米
 - 特別栽培米
 - JAS有機米
 - はざかけ米
- etc

団体認証に取り組むにあたり

～ JAと意思統一 ～



ポイント より多くの農場に参加してもらうために「どんな仕組みにするか」

⇒ 農場の負担軽減、意欲向上
⇒ 分かりやすい「仕組み」

- 事務局と農場で「管理点と適合基準」を役割分担し、分かりやすい農場用マニュアルの作成
- 迅速でこまめな情報提供（既存携帯メール情報の活用）
- 推進アイテムの充実
- 十二分な研修会の開催

役割分担（マニュアルの構成）



農場

農場用
管理点と
適合基準

農場用マニュアル（穀物）

事務局

団体事務局用
管理点と
適合基準

事務局用マニュアル（穀物）

事務局用マニュアル（団体管理）

事務局で対応できる事項は事務局で対応

農場用マニュアルの作成



農業普及指導センターが中心となり農場用マニュアル（通称「緑ファイル」）を平成24年12月に完成

- 分野別に構成
- 大きな文字
- 横文字などの「単語」は出来る限り使わない
- 地元でしか通じない「単語」でも分かりやすいものは使用

※マニュアルは部外秘



既存の携帯メール情報を活用



既存の携帯メール稲作情報提供システムを活用し、研修会案内、書類の提出、注意事項などを部会員に情報提供

※ 基本的に事務局からの全ての連絡は携帯メール

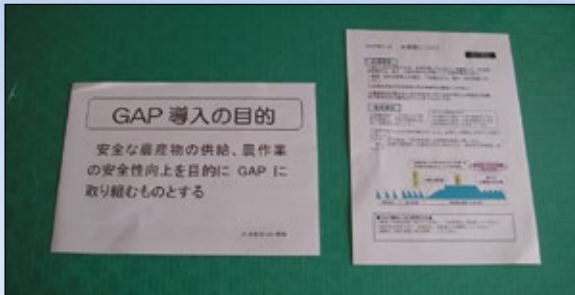


推進アイテムの充実

～（例）共通看板～



JA北魚沼GAP部会オリジナル看板は
事務局で作成



共通的な看板は、農業普及
指導センターの作成した
「はじめてのGAP」添付資料
を活用



農場用研修会



平成24年12月3日
GAP推進研修会（普及指導センター主催）

→ 約20農場が部会参加希望



平成25年2月12日、2月27日、3月6日
GAP実践研修会（普及指導センター主催）

最初は「多少は関心ある」「とりあえず勉強して
みる」などの農場が大半

特徴的な取組等



JA北魚沼GAP部会の特徴（参加農場が多数）を活かし効率化

平成25年11月6, 7, 8日
フォークリフト講習会
（JA北魚沼主催）



- 事務局（JA）主催による出張講習会（フォークリフト講習会等）の企画・開催
- 共通的に必要な物品（飛散防止蛍光灯、防油堤等）の共同発注



関係機関と調整し、バランスの良い研修会の開催（重複の防止）



魚沼市の協力による的確な「ほ場地図」の作成等

認証取得後の動き



- 参加農場の拡大
- GAP普及大賞受賞
- 販路拡大



出典：日本農業新聞、日系新聞

取組事例②

弥彦村の3法人同時取得 (個別認証)



取組の概要



H28年

弥彦村がGAP取得に係る
村単独事業を創設

H28年11月

3法人で「GAP勉強会」発足

H29年 5月

3法人がJGAP認証同時取得
(村の水稲面積16%以上のシェア)

H29年12月

更なる発展に向け3法人で
「神米会」を発足

取組のきっかけ



- 3法人（（農）第四生産組合、（農）サンファーム大戸、（農）アグリさくら）で大豆栽培など共同作業
- 法人役員等の労働安全への意識向上



村がGAP取得に係る村単独事業を創設

➡ 大きな「きっかけ」

GAP認証に取り組むにあたり



ポイント

3 法人が協力して足並みを揃えて
GAPに取り組む

※ 団体認証の手法を活用

⇒ 団体認証、個別認証は決めずに開始
⇒ できる限り「合同」「共通」

基礎的な勉強会（合同）



弥彦村と協力して
3 法人合同で開催

連絡調整 → 弥彦村
講師 → 普及指導センター



現地研修会（合同）



弥彦村と協力して
3法人合同で開催

連絡調整 → 弥彦村
講師 → 普及指導センター

現地研修は、危険箇所の確認などにおいて、ケーススタディになるので座学以上に「合同」の効果が高い



共通掲示物（共通）



従業員同士が他の法人の農場にも出入りする
ので、基礎的な掲示物は共通が良い



見つけて掲示



見えるところに掲示

設置して掲示



個別認証を選択



- マニュアル、様式などについて3法人と慎重に検討しながら「一定の範囲」で統一
- 各法人のこれまでの記録の活用、自由度を確保するため、現段階では個別認証を選択



- 認証審査においても日程調整等により効率的に実施

スライドのみ

認証取得後の動き



出典：日本農業新聞、朝日新聞

しんべいかい 「神米会」の発足



○米の販売等でも連携を深めるため、3法人で「神米会」を平成30年12月の発足

○ 発足直後から積極的に販売活動を実施

平成30年2月25日 新潟県主催商談会の様子





「伊彌彦米(いやひこまい)」

- 平成28年産から弥彦村がブランド化した商品
- 弥彦村の農家が生産した特別栽培米コシヒカリであることが要件



彌彦の神さまでした。

新潟に稲作を広めたのは

伊彌彦米


弥彦村
農家生産

新潟
県産
特別栽培米
コシヒカリ

新潟県弥彦村

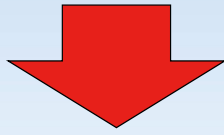
www.iyabiko-mai.com






「神米会の伊彌彦米」

伊彌彦米の要件に加え、独自の基準（GAP認証等）をプラスし、商品化



都内有名米穀店等
で販売開始



「(株)伊彌彦」の設立



○ (農) 第四生産組合、(農) サンファーム大戸、
(農) アグリさくらの3法人で「神米会」を発展
させ(株)伊彌彦を設立

○ GAP認証を契機に

→ 法人連携強化(神米会) → 販売強化

→ 更なる法人連携強化(伊彌彦) → 業務拡大

過去の事例から学ぶ ～失敗事例～

- ① 目的が不明確なまま進む
- ② 他の認証農場等の様式、ルールなどを集める
- ③ 外部に頼りすぎる
- ④ 用語に振り回される
- ⑤ やたらと改修、備品を購入する
- ⑥ パソコン教室になっている

事例) 三重県 美杉清流米部会

- 平成10年から美杉地域で栽培している無化学肥料・減農薬の特別栽培米コシヒカリ。
- 部会は現在20名、栽培面積は約23ha
- 特徴 品質管理の徹底、リスク管理
 - 1.9mmの網で調整
 - 1等比率が高い
 - 粘り気があり甘みがある
- 事務局 JA三重中央 農作業支援センター美杉



JGAPに取り組み始めてからの年表

- 2017.11 JGAPに部会で取り組む事が決定する
- 2018.3 4人の農家に絞り 導入研修を行う
- 2018.4 リスクの検討会
- 2018.8 トレーサビリティの研修
- 2018.11 団体・農場管理マニュアルの発行
その他16人の農場の導入研修
- 2018.12 JGAP認証審査（1月 JGAP認証取得）
- 2019.2 リスク検討会
- 2019.3 各種帳票配布
- 2019.7 トレーサビリティの研修・水分計校正
- 2019.8 生物多様性の調査
JGAP維持審査（11月 JGAP認証取得）





美杉清流米部会のシステム 改善サイクル

